

佐渡島内の園芸品目の高温対策について(共通)

1. 島内の状況について

現在、島内では干ばつと高温により園芸品目は多大な被害を受けています。主な症状としては、果菜類は、高温による生育不良や活着不良、葉の枯れあがり。果樹類では、果実の日焼け、果実の肥大・着果不良。樹勢・葉色の低下、樹体の日焼け・葉焼けが発生しています。

8月26日からの1か月予報によると気温は平年より上昇する確率が高いとされています。また、今後も降水量が少ないと、果菜類では今年の収穫、果樹類では来年の生育にも影響が出てきます。下記の管理を行い、今年の収量を維持すること・来年の収量を向上させることを目標に栽培をしていきましょう。

2. 今後の管理について

●野菜類

(1) 灌水について

(ア) 乾燥が続くと葉が枯れてしまい収量が減少します。土壌水分の確保と地温低下を図るため、夕方の涼しい時間に灌水を行います。畦間灌水を行う場合は、根腐れを防ぐために長時間帯水(水たまりを作るような状態)をしないようにします。

(イ) 地温の上昇を抑制するために、生育中の果菜類は厚めに敷きわらなどをしてください。今後、定植する場合は、白黒ダブルマルチ等を使用してください。

(ウ) 育苗中の苗については、発芽まで1日に数回灌水して土壌表面を乾かさないように努めてください。

(2) 育苗・定植について

(ア) 苗床温度の上昇を抑制するため、寒冷紗等の遮光資材を被覆するとともに、換気・通風に努めます。

(イ) 軟弱徒長苗の発生を抑えるために、灌水は早朝に行うことを基本として、日中高温時にしおれる場合には、葉に水をかけて葉面温度の低下を図ってください。また、晴天が続く場合には、育苗後半の灌水を土壌表面が濡れる程度に行い、苗の健全化に努めてください。

(ウ) 定植後の活着を図るため、定植作業は夕方に行います。定植する際に、畦立後の土壌の乾燥に注意し、土壌が乾いている場合は植え穴に十分灌水してから定植をしてください。灌水が難しい場合は、土壌水分確保するために定植直前に耕耘・畦立を行ってください。

●施設園芸について

(1) 灌水について

朝夕の地温や野菜の温度が低い時間帯に灌水を行ってください。

(2) ハウスの管理について

ハウス内の温度の上昇を下げるために、遮光資材の被覆を実施しましょう。それに合わせて、強制換気施設側面のビニールを開けるなどして風通しを良くしてください。

●果樹類

(1) 灌水について

乾燥が続くと、葉が垂れたり葉焼けが起き、落葉したりします。その対策として、灌水が必要になります。(参考:果樹の成木は、1回で300~500L/本(目標)を5日~7日の間隔で灌水が必要とされています。)

また、幼木や未成木では少量でも効果がありますので灌水を実施しましょう。

(2) 土壌表面マルチについて

果樹の下草刈りは草丈が長くならないように刈り取りそのままマルチをして、土壌表面の乾燥防止、果樹と草との水分競合を防ぐように管理をします。また、マルチ材(ワラ、ススキ等)が入手できて設置すると乾燥対策としての効果が向上します。

(3) 夏期新梢管理について

水平方向の主枝や垂主枝に直射日光が当たると、陽光面に日焼けが発生しやすくなります。対策として、近隣発生した枝で日陰を作るように誘引結束をして対策をします。

また、徒長枝等の不要な枝は、一度に切除すると樹がダメージを受けるので間隔を空けて処理をします。新梢については、発生部からではなく少し上から切除する処理を行います。

(4) 幼木・未成木の管理について

改植園地や新植園地の未成木や幼木は、成木に比べ根が深くまで伸びていないので乾燥にとっても弱いです。成木以上に、灌水を徹底して行うこと・土壌表面を乾かさないように管理を行うことが来年の生育にもつながってきます。

また、石灰資材のホワイトンパウダー(炭酸カルシウム剤)を幹に塗布することで樹の日焼けも防止できます。

(5) 着果管理について

通常の生育不良果実の摘果に加えて、日焼け果や縮果症果実等(樹体の水分ストレスにより果実の細胞が壊死・脱水して縮んだ果実)は天気や樹の生育状況を見ながら樹勢が回復してきたら除果を行います。

●病害虫の防除について

(ア) 高温乾燥が続くと、ハダニ類、アブラムシ、アザミウマ類、オオタバコガ等のチョウ目害虫、うどん粉病等の発生が多くなるので、状況に応じて臨時防除を行ってください。(乾燥時には粒剤での効果が期待できないため、水和剤等の液剤を散布します)。

(イ) 日中高温時の薬剤散布は、作業者の健康管理や薬害発生防止のため気温の低い時間帯に行います。